

－東日本大震災・富士見市応援プログラム－  
平成 28 年度被災者・被災地支援 実施報告書

自治振興部 鶴瀬西交流センター

1 実施の趣旨

東松島市の「震災支援を縁としたつながりを大切にし、つないでいきたい」という思いを受けて、「東松島夏まつり 2016」に富士見市としてブース出展を行い、東松島市と富士見市の市民交流を図りながら、被災地復興支援の一助となることを願って、実施しました。

また、震災現地を視察することで、震災した被災地の状況と復興の進捗を理解し、東松島市民との交流に生かすため、初めての参加者を中心に、視察学習をする機会を設けました。

- 2 日時・場所 平成 28 年 8 月 27 日（土）午前 9 時 30 分～午後 5 時 00 分  
宮城県東松島市内「東松島夏まつり 2016」会場ほか

3 支援内容

(1) 富士見市物産販売

販売内容：梨、エコたわし、その他

鶴瀬西交流センター利用団体からの協力品（陶芸作品など）

(2) 体験・遊びコーナー

- ・スマートボール
- ・ヨーヨー釣り、和楽器体験
- ・紙芝居
- ・プラ板キーホルダー

(3) ステージ参加

ふわっぴー、前富士見市長



プラ板でオリジナルキーホルダー作り

4 参加者及び役割分担（別紙名簿のとおり）

交流センター利用者等 10 人、市民ボランティア 15 人、職員ボランティア 3 人、ふわっぴー担当職員 4 人、事務局 3 人 合計 35 人

5 行程

8 月 27 日（土）

- 2 : 00 鶴瀬西交流センター・参加者集合、荷物積み込み
- 2 : 30 市役所・参加者集合、荷物積み込み、参加確認、出発
- 9 : 30 会場到着・出店準備
- 10 : 30 出店開始（現地視察は、14 : 00 出発 2 時間 野蒜周辺）
- 17 : 00 出店終了 ・ 17 : 30 東松島出発
- 23 : 40 富士見市役所到着・解散
- 23 : 50 鶴瀬西交流センター到着・解散

## 6 まとめ

今回は、鶴瀬西交流センターが事務局となり、取り組みを実施しました。

「東松島夏まつり 2016」での出店については、西交流センター利用者への参加呼びかけのほか、センターでの活動で製作した作品の提供を募るなど、市民とのつながりを生かして企画しました。

当日は、雨が降る中での開会となりましたが、午後には雨も上がり、会場は多くの人で賑わいました。本市の物産「梨」販売は、廉価な価格設定もあり大変好評で、昼過ぎには完売、また、交流センター利用団体に提供していただいた陶芸・木工作品なども、お客様に実際にお手に取って見てもらい、購入していただきました。昨年のもつりで市民提供作品を購入して下さった方も見え、「今年はどんな作品があるのか楽しみにしていた」との声もありました。



梨や提供品、エコたわしの販売



大賑わいのスマートボール

「スマートボール」では、その大きな台に注目が集まりました。参加する子どもたちの得点に、担当する皆さんも一緒になって一喜一憂し、大盛り上がりの様子でした。ヨーヨー釣りも、雨の上がるころには多くの子どもたちに楽しんでもらいました。

「紙芝居」や「和楽器体験」は、会場テントの裏側で実施するという悪条件の中、積極的に呼び込みを行い、親子連れの方を中心に観て、触れていただきました。

安心安全課の企画で行った「プラ板キーホルダー」については、簡単につくれる自分だけのオリジナルキーホルダーに子どもたちも満足の様子でした。

ステージでは、星野信吾前市長とふわっぴーが東松島市と交流のある自治体として紹介されました。

被災地の視察では、現地の方にガイドをお願いし、野蒜方面を中心に行いました。震災直後の写真や資料と現状を比較するなどし、参加者からは「現地で見てきたことを仲間たちに伝えたい」などの声が上がりました。

震災後5年5か月余りが過ぎ、東松島市内の様子や夏まつり会場の賑わいから、日々復興の進む様子を見ることが出来ました。



紙芝居に夢中!



東松島市の「イト&イーナ」、  
「ふわっぴー」と